

## 第4回の協議会が開催されました

平成22年2月10日、「函館市歩行者用案内標識整備協議会」の第4回会議が函館市水道局の4階会議室で開催されました。

会議の冒頭、事務局長である函館市土木部道路建設課の杉本課長から、「本事業が函館の街を訪れる来訪者に優しい街であるという印象を与え、是非またリピーターとして訪れていただき、少しでも観光振興に寄与できれば！」という開催挨拶の後、新任委員の紹介がありました。その後、松原座長（公立はこだて未来大学）の議事進行のもと、議題について協議が行われました。

## (行政関係機関委員の交代)

新任委員（敬称略）：北海道函館土木現業所事業部道路建設課長 坂野 雅人

## (第4回協議会の議題)

- ・試験設置とアンケート調査結果について
- ・整備計画書（案）について

## 試験設置とアンケート調査結果について

第3回の協議会で承認を得た「試験設置計画」に基づき、平成21年3月に西部地区の2箇所（函館駅前と十字街交差点）に設置した地図標識に対する利用者および外国人留学生に対するアンケートの結果について事務局から報告を行いました。

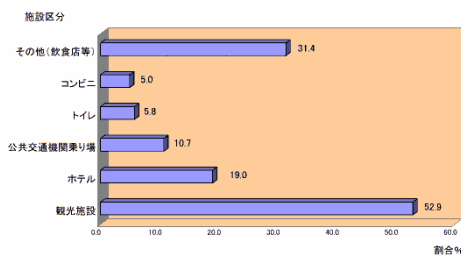
## (アンケート調査の概要)

- ・現地聞き取り調査：平成21年8月1～2日実施、調査数121人  
内訳：邦人100人、外国人21人
- ・外国人留学生調査：平成21年7月23日～8月7日実施、回答数38  
北海道教育大学・北海道大学の留学生を対象  
【ご協力いただいた方々に感謝申し上げます】

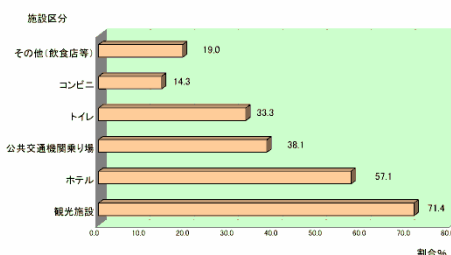
## (調査結果の概要)

調査は、「利用目的」、「みつけやすさ」、「景観との融和性・デザイン」、「情報量」、「ピクトグラムの評価」、「手持ち情報との照合容易性」、「観光情報サイトのQRコード」などの項目について質問しました。全体的には、肯定的な回答が多く利用者には好評を得ているとの結果でありました。特に外国語（多言語）の表記に対する評価は高く、否定的な意見はゼロでした。しかしながらQRコードの利用については、邦人、外国人ともほとんどニーズがないということで残念な結果となりました。調査結果の報告の後、利用者・外国人の意見を受けて整備計画に反映すべき改良点について説明がありました。

案内標識の利用目的(全体)



外国人の案内標識の利用目的



## (委員からのコメント)

- ・QRコードが不人気なのは意外。屋外での利用には向かないのか？
- ・世界標準に近い表記が外国人に好印象を与えているのではないか。
- ・ガソリンスタンド、駐車場のピクトグラムの取り扱いは難しい課題である。
- ・外国人の7割近くが観光施設付近に標識を設置してほしいとしていることは、特徴的。
- ・日本独特なピクトグラム（干など）の使い方については考えなくてはならない課題である。
- ・日本人はリピーターが多いため飲食店などの詳細の情報を求めている。一方、外国人はトイレや交通機関などの一般的な施設の情報を求めている傾向にある。外国人観光客を増やそうとする動向すれば、調査母体数は少ないが非常に参考となる調査結果である。



「第4回協議会」函館市水道局4階会議室



プレゼンターは、国土交通省北海道開発局函館開発建設部道路課の田名部係長でした。

聞き取り調査のようす（函館駅前）  
平成21年8月アンケート調査のようす（教育大学）  
平成21年7月

## 整備計画書（案）について

アンケート調査結果の報告の後、引き続き「整備計画書（案）」について事務局から説明を行いました。

### （基本方針の確認）

- ・整備対象地区は、西部地区、五稜郭地区、湯川地区の3箇所とする。
- ・各道路管理者はお互いの連携を図ったうえで事業を推進する。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた統一した規格・デザインとする。

### （標識のデザイン）

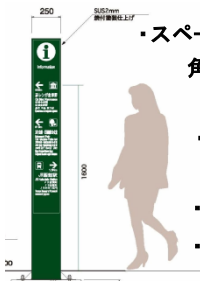
- ・標識は、地図標識および誘導標識の2種類。

#### （地図標識）



- ・試験設置と同様なデザインとする。
- ・地図の上部に著名地点案内標識（114B）を付設したものを標準とする。
- ・夜間の利用があると思われる箇所にはLED照明を付設。

#### （誘導標識）



- ・スペースを考慮し角柱式を採用。（□25センチ角、耐雪性を考慮してステンレス製）
- ・本体のカラーは、地区のイメージを考慮し、西部地区は緑系、五稜郭地区は白系、湯川地区は茶系を採用。（地図、誘導ともに）
- ・案内する施設名称は、5カ国6言語表記とする。
- ・最大表示高は160センチとする。



プレゼンターは函館市土木部の安藤技師でした。

### （地図のデザイン）

アンケート調査の結果を踏まえ、試験設置地図のデザインに次のような改良を加える。

- ・公共施設で一般開放されている「トイレ」もピクトグラムで表記する。
- ・函館市全域における位置関係が把握できるように「広域図」の縮尺を拡大する。
- ・QRコードは削除して、そのスペースは地図として最大限利用する。
- ・ピクトグラムは分かりやすいようにカテゴリ別に色分けする。（試験地図は全部黒）  
（交通系は赤、商業系はオレンジ、宿泊系は青緑、公共施設系は黒、歴史文化系はむらさき色）
- ・地図の縮尺は1/1000を基本とするが、案内施設との位置関係を考慮して適宜縮尺を変更する。
- ・コンビニも凡例部に多言語表記する。
- ・市電路線も凡例部に多言語表記する。
- ・ガソリンスタンドのピクトグラムは表記しない。
- ・現在位置の表示を拡大、凡例部にも多言語表記。

#### （改良後の地図デザイン）



### （標識の配置計画と整備スケジュール）

3地区の標識の配置計画を立案しました。主要な交通施設乗降場、観光施設周辺、主要交差点、などに歩行者導線を勘案し配置しております。

- ・3地区合計の計画設置基数は、地図標識が32基、誘導標識が72基、合計で104基です。
- ・計画年次は平成24年度までの4カ年計画とする。

#### （地区別・設置基数）

種別/地区	西部地区	五稜郭地区	湯川地区	標識種別合計
地図	21基	6基	5基	32基
誘導	42基	15基	15基	72基
地区別基数計	63基	21基	20基	104基

#### （年度別・設置基数）

地区	種別	平成21年度 (H20試験設置含む)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計
3地区計	地図	17	8	5	2	32
	誘導	14	22	19	17	72
	計	31	30	24	19	104

### （維持管理方針）

- ・街の情報は刻々と変化することから、情報の収集に努める。
- ・定期点検の実施。
- ・変更があった箇所は適宜部分修正を行う。
- ・版面の劣化が進んだ場合、全面貼り替えを行う。

### （協議会の運営）

- ・計画された事業が完了するまで協議会は存続する。
- ・特に議題が生じない限り会議は開催しない。
- ・事業に関する情報は各委員に提供する。
- ・事業の進捗をみながら、事業効果の検証を行うかどうかを検討する。

計画の概要の説明後、計画案について質疑が行われました。

（松原座長）試験設置標識の地図は新しいタイプにリプレースするのか？

（事務局）平成22年度の予算で対応したい。

（荻沢委員）広域図は非常に分かりやすくなった。地図の修正作業はどの程度の間隔で行われるのか？

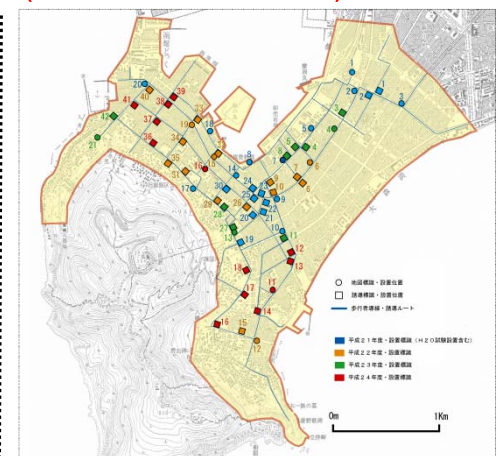
（事務局）面的に整備するので、各管理者が連携を図り修正作業の対応をしたい。（1年に1回程度を予定）

（平井委員）計画された場所以外に設置要望があった場合、また必要と思われる箇所が生じた場合の対応はどのようにするのか？

（事務局）計画はガチガチとは考えていない。必要と思われる箇所が生じた場合にはニーズを把握したうえで設置の検討をしたい。

（松原座長）今年の計画の箇所に設置されれば、春の観光シーズンには活躍できると思う。楽しみである。

#### （西部地区の配置計画・年次計画）



西部地区：地図標識21基、誘導標識42基、計63基。

質疑の後、全員一致で整備計画を承認し、設置作業のフェーズに移行することを確認し会議を終了しました。

ありがとうございます。